

☆第2土曜日の作業

2月の作業日は心配していた雪が夜明けに降り、河辺の森は雪化粧となりました。と言っても積雪は10センチまで、野外での作業は遊林会なら可能な状態です。参加者が何人になるかが気になる

ところでしたが、一番乗りは文字通り雪が降ろうが槍が降ろうがの炭焼名人、次に随分久しぶりの蛇つかみ名人、その後も徐々に人が増え、



雪の中でのタケ退治

何とか観察会が始まる頃には10人程になりました。雪が降っても積もっても参加者があるのが遊林会、ありがたいことです。

観察会は「めっち」の担当、まず作業小屋で鳥の種類ごとに3種類の大きさの鳥のシルエットを示しどれが本当の大きさかを当てるからです。最初はスズメで、14センチのシルエットを当てて皆さん正解。難しかったのはカラスの大きさで40センチか57センチか悩みました。57センチは大き過ぎないかと迷ってしまったのです。しかしカラスの大きさは57センチで、間近にそのカラスを示されると威圧感さえ感じてしまいました。その後はツグ、コガラ、メジロの巣を絵に描く問題を出題され、皆さん迷ったのはツグです。コガラはツツキですから木に穴を掘って巣にしますし、メジロは鳥の巣らしい鳥の巣と言ったところでしょうか。

さてツグの巣ですが記憶をたどると遊林会の活動を始めて間もない頃、交流広場と呼んでいるエリアで木の股のところに巣を作っているのが見つかりみんなで観察したことがあります。残念ながらこの巣は我々があまりにもたびたび観察したせいか、我々の動きで巣のありかを知ったと思われるカラスに襲われたと記憶しています。巣の実物見本としてめっちが標本庫から探し出してきた物はその時回収した巣だと思っています。作業小屋での座学が終わると、やはり観察会はフィールドに出なければと、雪の結晶を観察した後、積雪のある森を歩くことになりました。あのコブシは今月には蕾を膨らませており、咲き始めて3年目の今年は多めに花を咲かせてくれ

そうです。森に3本あるツグの林のツグの木に向かう途中、カラスの巣があるのが知らされましたが、こいつはいくら見てもツグのように被害が及ぶことはないでしょうから安心して観察できま

す。少し気になったのはこのところ続けて営巣しているツグの巣からあまり離れておらず、ツグがカラスを警戒して営巣を今年もしないのではということです。ツグは巣の周りに近づくと人を攻撃する



森を守るおてつだい！

ことで危険な鳥とされていますが、とある人によれば、ツグの巣立ちなどをカメラで狙っていてもツグから攻撃されないのは、人がいるからカラスが近づかないということを知って人を受け入れているのではということです。カラスは、そのツグやイソノの成鳥に対しても昼間には群れで攻撃を加える強者です。ツグが今年も営巣してくれることを願っています。

積雪の中の作業は、草原広場のツグの木を駆除、どんぐり広場の雪の上に姿を見せかけているタケ退治、そして番外のツグの林でこれまた雪だから目立つ冬枯れの野に緑色鮮やかなタケ退治です。積雪の中での作業はどうかという方のためにこの日新たに追加されたのは作業小屋でお湯を使っ

ての竹炭洗いでした。昼食は餃子鍋、白菜と豚肉の煮物、麻婆豆腐などでしたが、餃子鍋を懐かしがる声がありました。昔、保全作業を開始した頃には施設は何もなく、交流広場の大きなアブラの周りでの食事には、ドラム缶で作ったかまどに伐った木を燃やして、大きな寸胴鍋一杯に一輪車で運び込んだポリタンクの水と冷凍餃子を放り込んだこれが定番料理だったからです。もちろん今回の餃子は手作り、格別ではありませんが、そんなことを思い出させるメニューでもありました。煮物は白菜の甘さが絶品、料理長手製のおからもおいしくて、皆充分にいただきました。

午後の作業は、積雪もあるので中止ということだったのですが、ツグの林のタケ退治が途中で気になっており、夏はセイウチアザチソ、冬はタケの駆除だけに闘志を燃やすツグに引きずられる形でみんなで一汗かきました。ちょっといつもと違ううまじめな午後の作業となった次第です。

3月の作業日は

3月9日(第2土曜日)、27日(第4水曜日) 9時～(遅刻可)

遊林会の作業会議「森の居酒屋」は3月6日 午後7時頃～

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先 (遊林会事務局) : 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/>

E-mail : ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえブログ」で検索！

☆第4水曜日の作業

第4水曜日の作業は雨模様でスタート。作業開始頃には雨があがったものの、この日予定していた竹林の整備作業は、雨上がりに行くと竹に付いた水滴が頭上から降り注いでずぶ濡れになってしまうため、午前中は屋根の下での作業を行いました。それは、第2土曜日の作業日に使っている竹の名札のリニューアルです。第2土曜日は作業メニューが4〜6つと多く、しかも遊林会は遅刻可のため、後から作業に来た人が「今日はどんな作業があるかな、どの作業に人が少ないかな…」などが分かるようにと、自分が参加する作業に名前を書いた竹札を吊す仕組みがあるのです。最近、この竹札システムはあまり活用されていないのですが、その一因は増えすぎた竹札から自分の名前を探し出すのがたいへんという事にも一因があるようなので、一度竹札を白紙に戻して作り直すことにしたのです。

単に竹札と言っても、水曜日のメンバーはこだわって作ります。竹を切って、割って、ノコギリで粗削ぎしたあと、切り出しノコギリできれいに削り出します。おかげで、きれいな竹札がたくさんできました。次の第2土曜日から使いますから、みなさんぜひお名前を書いてくださいね。

お昼ご飯は、じゃこの混ぜご飯、アサのみそ汁、カブと鶏肉煮、他3品を、今日もおいしくいただきました。午後からは、密度管理をしているハクノ林で、竹の勢いが弱くなりアサなどの常緑樹が増えてきたので、竹林に戻すために常緑樹（ほとんどアサ）をノコギリで伐採しました。竹林の中にアサの親木があるため、非常にたくさんの実生がありましたが、皆で丁寧に切っていく、かなりすっきりしました。

☆2月の木ままクラブ

2/14 14人 先月からのドングリ広場の間引きの続きで、間引いた木は柴にした他、野鳥観察壁前の萌芽更新区域で先駆種の間引きを行い、ハクノ林にて常緑樹のひこばえ等を伐採しました。
2/21 11人 長い間割らずにためておいた丸太を縦割り式薪割り機にて割りました。また竹林で枯れていたカサなど4本を伐採しました。

3月は14日が活動日です

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

2月はわりと落ち着いた月で、あるスタッフは北海道の雪祭りに、別のスタッフは沖縄へと、日本の北と南へ旅行に行ってきました。北海道は−2℃で、一方沖縄のサウナはもう終わりがけでした。同じ日本なのにびっくりですね。3月には大阪のイベントや春休みのイベント、クリスマスなど、盛りだくさんの月なのでさむくて体調を崩しやすい季節ですが、気合いを入れてがんばっていききたいと思います。

☆モリイコ！の子どもたち

年間を通して森で活動するモリイコ！も、今年度の最終回を迎えました。

モリイコ！Sは「炭を作ってみよう」という内容でした。お茶筒にマツボックリやツバキの実、ドングリなどを入れ、自分たちでつけたファイヤーサークルの火に入れて焼きました。焼けた炭はコルクボードに貼って写真飾りを作り、集合写真を飾りました。なかなか凝ったものも多く、眺めていても楽しいものでした。

モリイコ！では「森を守るお手伝い」として落ち葉かきと常緑樹の伐採を行いました。落ち葉かきはとても楽しそうで、あっという間にたくさん落ち葉が集まりました。伐採は細い木とはいえ、倒してから何回も切るのでかなり大変だったと思いますが、子どもたちのがんばりによって無事に伐採できました。最後はその木の枝を使って色鉛筆と鉛筆立てを作りました。久しぶりのナイフでの工作で、みんな真剣でした！

3月にワークショップ活動日はありますが、正規活動はこれで終わりです。モリイコ！は小学3年生までなので今年で終わりの子もいますが、また森に遊びに来てくれるといいなと思っています。

モリイコ！は来年度も実施予定で、ナシは3月中旬よりネイチャーセンター、東近江市内図書館、遊林会ホームページにてご覧頂きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

☆「SAVEJAPAN・カトラリー講座」

この冬、森では大人向けのイベントで「SAVEJAPANプロジェクト」があります。これは、損保ジャパンさんが寄付を募り、そのお金で日本国内で自然を守っているNPOを支援しよう、という事業です。こちらから助成を申請した事業ではなく、共催のしがNPOセンタさん推薦で決まりました。滋賀県では3件しかない事業なので、県内でも有数の自然保護団体として実力を認めてもらっている、嬉しい事業なのです。

さて、2回目のカトラリー講座ですが、定員をオーバーし、何人もお断りしないといけない事態になった人気講座。森の枯れた桜の木を使って、バターナイフを作りました。午前中の時間で作り、午後からは森を散策です。午前中にできあがるか心配していた人も、しっかりと完成、みさんん賑やかに、楽しくすごせました、またしてね！と好評の講座でした。

☆3月の作業は…

お昼は恒例の炊き込みご飯、春の山菜、フキナリがでてるかなあ、という感じです。容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！